

住民が安心して住み続けられるための地域医療を！
**地域医療を守る共同行動
みやぎ連絡会**

News

2024.6.7.FRI No.192

発行／地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会事務局
〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町39-18（民医労内）
TEL 022-782-0633／FAX 022-782-0634

Stop!

県民を分断し、
当事者を苦しめる

4病院再編・移転

もうこれ以上の持ち越しはやめるべき！

スタンディングアピール リレートーク

県議会 6月議会
開会日です。

みんなで、13:00 からの県議
会本会議を傍聴します。
12:45スタンディングの場所に
お集まりください。

6/13(木)

11:30～12:00

宮城県庁前



県立精神医療センター・東北労災病院の富谷市移転が＜継続協議＞となって2ヶ月が経過しました。しかし、県は今年になって何も「進捗はない」と言っています。「協議延長」は精神医療ユーザーにとって、さらに精神的苦痛を助長し病状を悪化させる重大な間題となっています。一刻も猶予はありません。名取市内での建替えを早期に行うことが、精神医療センターを軸にして、名取市民が集いできた社会資源を活かす唯一の道であり、問題解決の道です。県議会開会日に当たり、改めて、この声を県議会に届けましょう。是非ご参加ください。（チラシより一部抜粋）

<呼びかけ人>

小泉潤（医師・精神障害者のくらしと医療を考える仙南ネットワーク代表）、島田福男（東北労災病院を守る会・前青葉区連合町内会会長協議会会長）、廣瀬博（八木山連合町内会会長）、新里宏二（弁護士・ともに市政をつくる仙台市民の会会長）

STOP! 精神医療センター富谷移転、
2・23みやぎユーザーズアクション

これ以上、
私たちを
苦しめないで！

県立精神医療センター
富谷市移転「協議継続」

Users Action

シンポジウム

III

入場
無料

2024.6.15 [SAT] 15:30 開場 16:00-18:00

仙台市福祉プラザ2F ふれあいホール

◆ゲスト：原 敬造(精神医・原クリニック院長) 磯谷 裕治(精神保健福祉家族会 仙台みどり会)
奈尾 隆平(名取メンタルヘルス協会) 敬称略

◆司会/進行：山本潔(ユーザーズアクション共同代表)・川村有紀(ユーザーズアクション共同代表)

【主催】2.23みやぎユーザーズアクション実行委員会 【問合せ】stop.iten0223@gmail.com



2024年6月6日 河北新報

<https://kahoku.news/articles/20240605khn000083.html>

4病院再編 仙台への救急搬送

県「マイナス影響なし」

県救急医療協議会が5日、県庁であり、仙台医療圏4病院の再編構想が救急医療に与える効果や影響を議論した。県は仙台市内の2病院が市外に移転して市内の受け入れ機能が減つて

も、新病院が市内への救急患者の流入を抑制するので「市内の救急搬送にマイナスの影響を及ぼさない」と説明した。

構想は仙台赤十字病院（仙台市太白区）を名取市

に、東北労災病院（青葉区）を富谷市に移す。仙台赤十字は約2100件、東北労災は約3300件（ともに2022年実績）の搬送を受け入れている。

県は、仙台赤十字が移転先で現在と同じ件数を受け入れる場合、医療圏南部の名取市、あぶくま両消防本部から仙台市内に流入している約4500件（22年）の搬送がその分減り、影響が相殺されると分析した。

東北労災も同様に医療圏北部からの流入分の一部を受け入れるため、仙台の救急医療に影響がないと主張した。

一方、仙台市消防局の委員は「市内の救急搬送時間が再編でどうなるかは確認されていない」と述べ、市内の受け入れ機能が低下するとの懸念を示した。

他の委員からは「仙台以外の傷病者の負担軽減になる」など再編への期待も聞かれた。おとな救急電話相談（#7119）の24時間化や救急医の増員を求める声もあった。

病院再編構想で宮城県が救急医療の見通しを示す 仙台市からは疑問の声

<https://youtu.be/pWSOCIA2bBw?si=rXB2sE1Tai6VRjPP>

2024年6月7日 khb東日本放送



病院再編構想をめぐり、宮城県が再編後の救急医療の見通しを示しました。

県は、仙台市太白区の仙台赤十字病院と名取市の県立がんセンターを統合して名取市に、仙台市青葉区の東北労災病院と名取市の県立精神医療センターを集約して富谷市に移転する方針です。

県は5日の会議で、再編による仙台医療圏の救急医療の見通しを示しました。

名取市など仙南の自治体から年間約4500件、富谷市などから約7500件が仙台市へ搬送されています。再編により、仙台赤十字病院が受け入れている2100件程度を名取市の新病院が受け入れるため、仙台市への搬送を減らすことができ、富谷市の新病院についても同様の効果を見込めるとしています。

これに対し、仙台市側から「仙台市の救急医療への影響が確認できないと再編を良しとはできない」など県の試算を疑問視する声が上がりました。

宮城県保健福祉部大森秀和副部長「（新病院の）機能がしっかり充実して、今以上の効果がもたらされるということに持っていかないと再編の意味がないので、そこはしっかり各病院関係者とも協議しながら実現に向けた取り組みをしていきたい」